

次世代自動車・スマートエネルギー特区 〈ハイパーエネルギーステーションの普及事業〉（平成29~31年度実施）

特区の目的・事業概要

【目的】

・暮らしやすく、活力のある都市として、継続的に成長する「環境未来都市」を実現する。

【取組概要】

・ハイパーエネルギーステーション（HES）の普及（市内全域対象）

太陽光パネル、発電機、蓄電池、電気自動車（EV）用急速充電器、燃料電池自動車（FCV）用水素充填施設等を設置した、災害時にも多様なエネルギーを供給するハイパーエネルギーステーションを普及する。

①レジリエンスステーション

→ 平時多様なエネルギーを供給し、災害時には「物流・防災拠点」として、エネルギー電力、熱、水などの供給を継続する天然ガススタンドを核としたステーション。

②ハイパーエネルギーステーションB（HESB）

→ 災害時でも発電可能な市有施設等にEV用急速充電器を設置し、次世代自動車用のエネルギーを供給するステーション。

③ハイパーエネルギーステーションC（HESC）

→ エコリフォーム事業により外部給電器が整備された住宅・事務所等にて、災害時、EVに電気の供給を行う、地域コミュニティの共助を活かす身近なステーション。

④ハイパーエネルギーステーションV（HESV）

→ 平時には省エネルギーな移動手段として活用し、災害時には避難所等で電源として活用することが可能な次世代バス。

・スマートホーム・コミュニティの普及

（さいたま市域区内・みそのウイングシティ（土地区画整理事業地）内対象）

太陽光発電システムや燃料電池等で発電した電気をEV等に蓄え、街区内の住宅同士がエネルギーを共有することで、エネルギーを効率的に活用したり、災害時のエネルギーセキュリティを確保したスマートホーム・コミュニティを普及する。

・低炭素型パーソナルモビリティの普及（市内全域対象）

子育て世代や高齢者等の移動手段ニーズに対応する低炭素型パーソナルモビリティを普及する。

事業イメージ

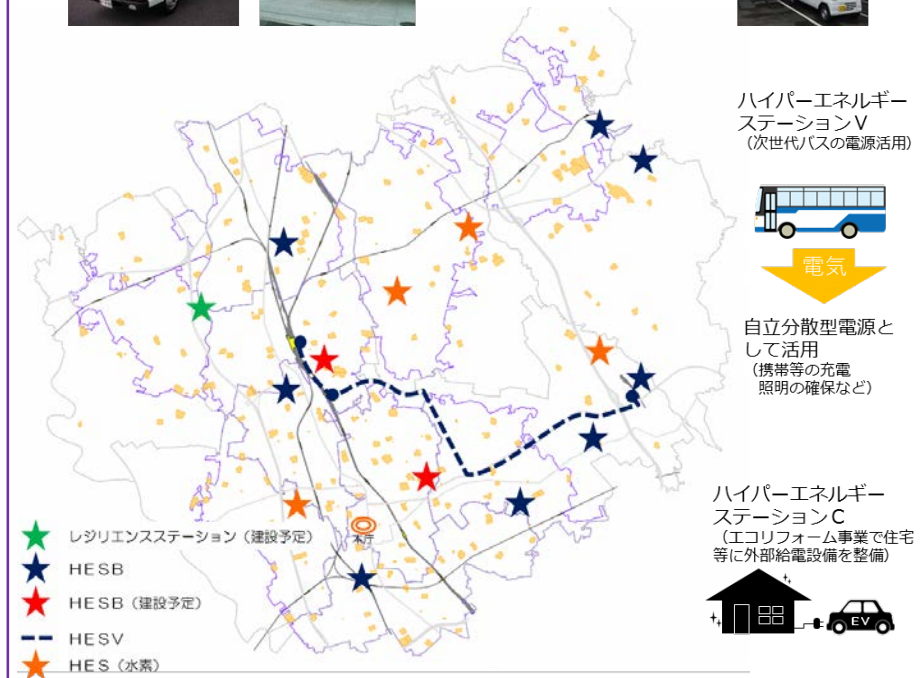
レジリエンスステーション
（天然ガススタンド+災害時に様々なエネルギー、電力、熱、水などを供給）



ハイパーエネルギーステーションB
（太陽光+蓄電+充電器）



避難所指定を受けた
市コミュニティ施設→



特区における効果

・レジリエンスステーション、ハイパーエネルギーステーションB、ハイパーエネルギーステーションC、ハイパーエネルギーステーションVが全市に普及することで、平時の低炭素化、災害時の市全体におけるエネルギー供給網が強固となり、レジリエンス性の向上につながる。